

平成 28(2016)年度事業計画書

一般財団法人 高度映像情報センター
(A V C C)

自 平成 28 年 4 月 1 日
至 平成 29 年 3 月 31 日

目次

I はじめに.....	4
II 霞が関ナレッジスクエア (KK ²) 事業	5
(1) “自分で自分を育てる”協賛メンバー向け学習サービスのご提供.....	5
(2) 人と人の絆と地域の再生	6
ー1 復興から地方創生へ「デジタル公民館まっさき」活動.....	7
ー2 心と体のストレッチ ～身につけよう、キズナデカラ～.....	7
ー3 災強！霞が関防災キャンプ ～帰宅困難を体験して「防災体質」になろう～	7
ー4 レジリエンスを磨くプログラムのコーディネート業務	8
ー5 大規模災害時における帰宅困難者等受入に関する協定締結	8
(3) しごと力向上・エキスパートと学ぶ	9
ー1 社会で活躍する人のしごと力を学ぶ「エキスパート・スタジオ」.....	9
ー2 しごと力道場 ～思考力を高める対話型トレーニング～	10
ー3 しごと力向上ライブラリ.....	10
ー4 カウンセリングプログラム	11
ー5 キャリアカフェ.....	11
ー6 イノベーションプログラム	11
ー7 コンピテンシー・チェック	12
(4) 文化に親しむ交流事業 (KK ² 文化プログラム)	12
ー1 食と文化講座.....	12
ー2 霞が関シアター	12
ー3 霞が関寄席.....	12
ー4 「KK ² 文化プログラム」出演アーティスト公募事業 (KK ² エントリープログラム)	12
ー5 音楽・文化活動への支援.....	13
ー6 「霞が関音楽祭」への協力	13
ー7 江戸 TOKYO 散歩～広重「名所江戸百景」と東京の今～	13
(5) 官民連携支援事業	13
ー1 霞が関オープンランチミーティング	13
ー2 霞が関ばたけ	13
(6) 運用業務関連.....	14
(7) その他	14
ー1 運用業務関連	14
ー2 メールマガジン「メッセージ from KK ² 」.....	14

Ⅲ コンサルティング事業	15
(1) ネットワーク設計コンサルティング業務	15
ー1 海底ケーブル設計コンサルティング業務	15
ー2 防災情報ネットワーク設計コンサルティング業務	15
ー3 高速伝送路設備設計コンサルティング業務	15
ー4 衛星通信設備コンサルティング業務	16
(2) システム設計コンサルティング業務	17
ー1 基幹システム最適化支援業務	17
ー2 電子自治体構築支援業務	17
ー3 地域活性化支援業務	17
ー4 教育・文化施設等における情報システム構築支援業務	18
(3) 情報セキュリティコンサルティング業務	18
ー1 ISMS 構築及び ISO27001 認証取得支援業務	19
(4) 情報セキュリティ外部監査業務	19
(5) プライバシーマーク認定審査支援業務	19
(6) 情報セキュリティ/個人情報保護等研修支援業務	20
(7) ICT 部門における業務継続計画 (BCP) 作成業務	20
Ⅳ ICT 利活用を支えるシステム運用保守事業	21
(1) TV 会議システム運用業務	21
(2) ICT を活用した地域コミュニティの運用支援業務	21
Ⅴ 人材育成プログラム・Web プラットフォーム企画開発事業	22
(1) 学習プログラム企画開発事業 (動画コンテンツ/ Web コンテンツ制作)	22
(2) オンライン学習サービスの提供	22
(3) 統合 Web インフラ構築支援	22
添付資料1:KK ² Competency の解説	23
添付資料2:『みんなの笑顔が宝物』	26
添付資料3:平成 28 年度 (2016 年度) 霞が関ナレッジスクエア (KK ²) 事業 年間計画 (案)	28

I はじめに

～ AVCC は、ICT を活かした「人にやさしい」コミュニティの実現を目指します ～

火山や地震の多い国土に、「今まで経験したことがない」と表現される自然災害も加わり、安全安心に対する国民の「信頼」が揺らいでいます。また「長生きリスク」と呼ばれる超高齢社会における将来への「不安」も加わり、国民が抱える「デフレマインド」は非常に根深いようです。

かつて労働組合が叫んだ「賃上げ」「同一労働同一賃金」を、昨今総理大臣が唱え話題になっていますが、国民がまず何を望んでいるのかといえ、それは「お金よりいのち」であり、「笑顔と笑い声が絶えない安心できる社会」ではないでしょうか。

「国土強靱化」「地方創生」「一億総活躍社会」「女性活躍推進」と次々と新しい旗印が立てられていますが、国民はどう考え、どう行動すればよいのでしょうか。今まで以上に、一人ひとりが「己を知る」「課題に向きあう」「自己を変革する」、即ち「自分で自分を育てる」「新しいことを習得する」ことが求められています。

3.11 東日本大震災から丸五年が経過しました。この間私たちは岩手県気仙を訪問し、ICT 弱者支援を目的とする「PC ネットよろず相談」活動と、都会に住むよそ者が被災地の「人と人の絆」や「レジリエンス」を学ぶ活動を組み合わせ、共に考え共に学ぶ活動を続けてきました。都会から駆けつけた「よそ者（ボランティアスタッフ）」が取組んだ、ICT 弱者⇔高齢者の支援では、集落の高齢者達が Excel を使って「しごと力」を向上させ、メール・Web サイト・ブログ¹で活発に情報共有し、facebook で「よそ者」と繋がり、人と人の絆と地域の再生を後押しする得難い体験となりました。



まさき活動での「パソコンインターネット
よろず相談」風景～孫世代とともに～

しかし私たちが ICT 弱者⇔高齢者の支援に取り組めた地域は限られています。行政は、被災地の「自立」による「地方創生」のモデルを目指すと、この五年間の集中復興期間を総括していますが、「自立」しない個人・「自立」しない集落・「自立」できない地域は置き去り、と解釈するのは勘繰り過ぎでしょうか。

被災地に限らず変化が常態化する今日の社会では、ICT を活かし「何時でも何処でも誰でも学ぶ」ことが求められますが、ICT は決して「人にやさしい」ツールではなく、高齢者等「ICT 弱者」が置き去りにされています。

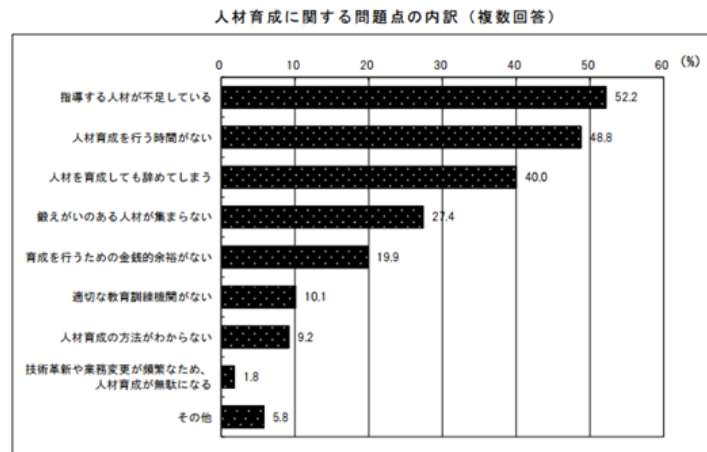
AVCC は、ICT 利活用のコンサルティングにおいて「ICT 弱者」を決して切り捨てず、国民一人ひとりが「自分で自分を育てる」「新しいことを習得する」力を身に就けることを目指します。ICT を活かした「人にやさしい」コミュニティの実現を目指し、身の丈にあった活動を粛々と続けてまいります。

¹ <http://www.massaki.jp/>

Ⅱ 霞が関ナレッジスクエア(KK²)事業

霞が関ナレッジスクエアは「共に考え、共に学び、共に担う社会へ」というミッションを掲げ、様々な立場、考えを持つ人たちの交流の場、そして気づき、考えるきっかけを提供し、実際に行動する人々を応援します。今年度も「人と人の絆と地域の再生」「しごと力向上・エキスパートと学ぶ」等自律した学びと交流事業に取り組んでまいります。

厚生労働省の「能力開発基本調査」によると、企業の人材育成に関する問題点として「指導する人材が不足している」と「人材育成を行う時間がない」「人材育成を行う時間が少ない」「人材を育成しても辞めてしまう」が上位三点挙げられています。企業では「今まで経験したことがない」事態が次から次に発生し、「当面の課題」への対応が優先され、先送りされる「人材育成」というジレン



〔平成 26 年度 厚生労働省「能力開発基本調査」
人材育成に関する問題点の内訳（複数回答）〕

マに陥っていることも推察されます。一方 ICT の目覚ましい発展により、今の仕事がロボットや人工知能に代替され 10 年後には無くなっているかもしれません。

変化が常態化し想定が難しい時代に必要なのは、未知の状況に直面したとき、自ら新しいことを学び、自分で自分を育て、事態に柔軟に対応できる人材です。人材育成は勿論組織の義務ですが、その人の成長向上を図る最終の責任は自分自身にあります。KK²は、自ら学び、自ら成長するみなさんを応援します。

（1）“自分で自分を育てる”協賛メンバー向け学習サービスのご提供

KK² Web は、「しごと力」「コンピテンシー」²をいつでもどこでも誰でも学べる学習サイトとして、広く一般のみなさまにご利用いただいておりますが、今年度より協賛メンバー様が自社の社員・従業員に対して「自分で自分を育て、学ぶ環境」を提供する、「協賛メンバー向け学習サービス」を開始します。

従来の企業内教育・職業教育では、知識・スキル・資格を積み上げるアプローチが主流ですが、果たしてどこまで成果につながっているのでしょうか？KK²では、高業績者・活躍する人・しごとが出来人（エキスパート）の行動特性である「コンピテンシー」を学べるプログラムをそろえています。たとえば、活躍する人のしごと力を学ぶ「エキスパート・スタジオ」ではこれまでに41名のエキスパートが登場し、各人が就いている職業の中で発揮する「コンピテンシー」を明らかにしています。学習者は、それぞれのエキスパートから、自分のロール・モデルとして目標となる行動特性を学び、自分

² 参照 添付資料1:KK²Competency

自身の向上、変革に活かす「納得できる学び」のきっかけを得ることができます。知識偏重ではなく、自分で気づき、考え、行動に移すきっかけとなる学習プログラムとして是非ご活用ください。

具体的なサービスの内容としては、指定ドメイン(メールアドレスの@以降)からアクセスした場合に、各協賛メンバー様専用のページを表示し、重点的に学んでほしいプログラムを優先的に提示することができます。専用ページでは、オリジナルプログラムの掲載や、ライブ配信も可能です。

レンタルスペースやプログラム参加費の割引だけでなく、協賛メンバー様に魅力的なサービスを提供することで、KK² 事業を支えていただく協賛メンバー数の増加を目指し、またすでに協賛メンバーである企業・組織のみならずさらに KK² を活用していただけることを目指してまいります。



協賛メンバー 画面イメージ

(2) 人と人の絆と地域の再生

～人と人の絆の強い地域の「強靱性(レジリエンス)」を学び、
有事にしなやかに対応できる人財育成と地域づくりを目指します～

「デジタル公民館まっさき」活動を継続し、ICT デバイド解消とコミュニティ活動を後押しし、ICTを活かした「人にやさしい」コミュニティの実現を目指します。この活動は、戦後の経済最優先で歩んできた日本社会の脆さや忘れてしまっていた「日本人らしさ」を思い出す学びでもあります。³

2020 年オリンピック・パラリンピック東京の開催を4年後に控え、人と人の関係が希薄な東京で、災害や様々なハザードに対してどこまで地域の強靱性(レジリエンス)があるのか、0.48 km² の震が関で官民交流等を通して人と人の絆を育み、いざという時、災害に強くなる人づくり、地域づくりの場を提供します。

³ 参照: 添付資料2『みんなの笑顔が宝物』

ー1 復興から地方創生へ「デジタル公民館まっさき」活動

2011 年秋より KK² が岩手県気仙地区で取組んできた「デジタル公民館まっさき」活動は、岩手県大船渡市末崎地区公民館をハブとして、ICT 弱者の支援と自律したコミュニティ活動を後押ししてきました。2014 年度、2015 年度と復興庁・文科省の「学びを通じた被災地域コミュニティ再生支援事業」に採択されましたが、東日本大震災の復興事業について行政は、5 年間の集中復興期間で一区切りとして、その後の施策を定めるとしており、今年度国の事業委託は無くなりました。



〔末崎地区公民館（ふるさとセンター）〕

しかし、大船渡市には未だに 13 ある地区公民館にネット環境を設ける予算はなく、住民対象に「パソコンインターネットよろず相談」を実施できるような自立した活動ありません。私たちが設置したインターネットに繋がるパソコン 4 台（公民館 2 台、仮設住宅集会所 2 台）が、1,500 世帯 4,400 人の町内で唯一、公共的にみんなが自由に使える ICT 環境となっています。

今年度も引き続き、AVCC は自主事業として大船渡市末崎地区公民館の ICT 環境を維持し、公民館をハブとする ICT を活かした「人にやさしい」コミュニティ作りを目指し活動を継続します。今年度は、旅費・宿泊費を自己負担で参加していただけるスタッフを募り、現地のみなさんの自主的活動に合わせて、数回程度訪問し活動します。

ー2 心と体のストレッチ ～身につけよう、キズナヂカラ～

「日常」の積み重ねが「非日常」を超える！をテーマに、日々自分の心と体に向き合うことの大切さ、人と人とのきずなづくりの大切さについて実感できるプログラムを 2014 年度よりスタートしました。金曜日の夜、仕事帰りに気軽に参加していただけるプログラムです。終了後は、講師と参加者同士で交流していただきます。今年度4回開催予定です。



〔2015 年 4 月 24 日開催 プログラム風景〕

- ・開催予定日：5/13(金)、9/9(金)、11/11(金)、1/20(金)
- ・講師：鎌田修広さん(株式会社タフ・ジャパン)

ー3 災強！震が関防災キャンプ ～帰宅困難を体験して「防災体質」になろう～

災害発生により帰宅困難者となったという想定で、参加者は制約のある環境のもと、見知らぬ者同士で助け合いながら一晩を過ごすという体験を通じて自分たちで考え、学び、気づきを得ることを目的としています。プログラム終了後メーリングリストで約 3 週間にわたって講師と参加者が交流を行い、それぞれの課題をクリアすることで、防災意識を継続していき「防災体質」を目指します。

2014 年度よりスタートし、延べ 100 名の方にご参加いただきました。2015 年度は 1 回を予定していましたが、最少催行人数に達せず中止となりました。とても意義のあるプログラムと考えています

ので、今年度は多くのみなさんに参加していただけるようニーズに合わせてプログラム内容の見直しを行い 1 回開催予定です。

・講師：鎌田修広さん(株式会社タフ・ジャパン)



[2014 年 3 月 13 日開催 活動風景]

ー4 レジリエンスを磨くプログラムのコーディネート業務

KK² で開催する帰宅困難者体験等防災関連のプログラムがきっかけとなり、企業より依頼を受け防災教育プログラムのコーディネート業務を行っています。通常のマニュアルに沿った防災訓練では十分ではなく、意識改革を主眼とした体感型訓練を実施することで、実際の有事に自分の頭で考え行動できる、また人とコミュニケーションをとり行動できることをテーマとした教育プログラムです。今年度も要請があり次第実施します。

ー5 大規模災害時における帰宅困難者等受入に関する協定締結

2015 年 2 月、千代田区と「大規模災害時における帰宅困難者等受入に関する協定」を締結し、震災、水災等の災害により被災した千代田区内の帰宅困難者等を一時的に「エキスパート倶楽部」と「スタジオ」に受入協力を行います。区の災害対策本部と専用無線で結ばれ、リアルタイムな情報連携が図れる環境を整えています。月 1 回千代田区災害対策危機管理課と防災無線の開通テストの実施、2016 年 2 月には実際の受入を想定した訓練も行いました。東日本大震災発災時に KK² として独自に帰宅困難者受入を行った経験を活かし充実を図ってまいります。今年度も月 1 回の防災無線訓練、年 1 回の実地訓練を行う予定です。

なお、帰宅困難者に対しては、以下の環境を整えております。

- ・3 日分の水食料、毛布、携帯トイレなどの備蓄
- ・災害時特設公衆電話(4 回線)の設置
- ・大型ディスプレイからの災害情報番組の放送
- ・最新の交通情報、被害情報などの提供
- ・Wi-Fi 回線の開放及びパソコンの無料貸与
- ・スマホや携帯電話の充電対応 など



[2016 年 2 月 8 日開催 帰宅困難者等一時受入訓練風景]

(3) しごと力向上・エキスパートと学ぶ

KK² では、高業績の人、社会で活躍する人、仕事ができる人を「エキスパート」、エキスパートが備える能力を「しごと力」(参照:添付資料2「KK² しごと力カテゴリ」と命名、Competency(活躍する人の行動特性)、「Feel(人間力)」、「Think(知・考力)」、「Act(行動力)」と、Skill(技能)、Knowledge(知識・理解)の5分類17項目のカテゴリに定義分類しています。提供プログラムにはすべてこのカテゴリを付与しています。

ー1 社会で活躍する人のしごと力を学ぶ「エキスパート・スタジオ」

「エキスパート・スタジオ」は、様々な分野で活躍するエキスパートをゲストに迎え、「仕事とは」「働くとは」「働く喜びとは」について考え学ぶインタビュー形式のキャリア教育番組です。ゲストは、さまざまな職業で活躍する若い世代から、人生二周目で社会の課題解決に挑戦するアクティブシニアまで、目の前の課題に全力で挑戦するエキスパート達です。

「アソシエイト」「リーダー」「シニア」各層の参加者が、エキスパート達の考え方、行動、しごと力、コンピテンシーを紐解き、それぞれの目標となる「ロール・モデル」を見出すことを目的とし、現在 41 人のエキスパートを紹介しています。

なお、昨年度紹介した6名のうち、3名が公益団体、民間企業で活躍する若きエキスパートでした。就職活動の時期に合わせて開催し、ライブ配信での参加を含め多くの学生が参加しました。通常の会社説明会とは異なり、単なる仕事紹介だけでなく、エキスパートの仕事への思いやコンピテンシーについてじっくりと向き合うことができるため、組織も求める人材像を学生達に直接伝えられることができる有意義な場として、学生側にも組織側にも評価していただきました。今後も、リクルートで活用したいという組織・企業の要望があれば対応をしてまいります。

今年度もさまざまな仕事の分野で活躍する6名を紹介する予定です。そのうち、アクティブシニア層のゲストエキスパートを招く「生涯現役版エキスパート・スタジオ」を若干名予定しております。



[2015 年 7 月 30 日開催 第 37 回アントレプレナー
坪田 康佑さん(医療振興会 どこでもクリニック理事)]



琴浦 容子さん
(JICA 人事部)



坪田 康佑さん
(看護師/どこでもクリニック理事)



守部 智博さん
(宮崎県高鍋町役場)



山田 一久さん
(特別養護老人ホーム
ほほえみの園施設長)



塩入 康夫さん
(ANA エアポート
サービス株式会社
ランプサービス部)



品川 優美さん
(ANA エアポート
サービス株式会社
旅客サービス部)

[2015 年度「エキスパート・スタジオ」ゲストのみなさん]

ー2 しごと力道場 ～思考力を高める対話型トレーニング～

「アソシエイト」「リーダー」層を中心にビジネスにおける普遍的なテーマについて、定員 10 名の少人数でディスカッションを行い「自分で考える力」「自分を客観的に評価する力」を養うプログラムです。昨年度のディスカッションテーマは、『主体性とは』～言われたことだけやってちゃダメなの？～』『合理化とは？』～企業の合理化は、社員にとっても合理的なのか～』『信用』と『信頼』～信頼できるけど、信用できない人っているの？～』となっており、テーマは参加者の希望からファシリテーター(師範代)が選択しています。

なお、継続的な参加によって効果的が上がるプログラムということで、現在参加回数に応じた段位認定を行い認定証の発行を行っています。現在参加者の定着化も進み、回数だけの認定では十分ではないという意見も多くいただくようになりましたので、今年度は段位認定基準の明確化、また現在黒帯保持者が 3 名となっており、黒帯の上のランク設定についてもご希望がありますので議論を進め方向性を決定してまいります。今年度も 3 回開催予定です。

- ・開催予定:06/18(土)、10/22(土)、2/25(土)
- ・ファシリテーター(師範代):池田正夫さん(人材育成コンサルタント)



[2016 年 2 月 27 日開催 第 11 回しごと力道場
テーマ「信用」と「信頼」とは]]



[認定証:白帯(1 回)、茶帯(3 回)、黒帯(5 回)]

ー3 しごと力向上ライブラリ

学校での知識偏重教育、企業での業務遂行やコンプライアンスを目的とする画一的な教育に対し、より広い視点にたった社会で活躍するために必要な「しごと力」を身につける学びは自己責任に帰す傾向が強くなり、結果として学習機会が減少しているのが現状です。

いつでもどこでも誰でも無料で学べる「しごと力向上ライブラリ」はこれまで **76 講座 219 単元**(2016 年 3 月現在)を開発しています。KK² 協賛メンバーはもちろん、教育研修体制を整えるのが難しい中小企業等でも活用していただくためにも、各組織の教育ニーズをヒアリングし、KK² と各組織が共同でプログラムを開発し提供することも予定しています。今年度も毎月 1 単元の開発を行い KK² Web サイトで公開します。



[2015 年 8 月 27 日公開「初心者向け！
“しごと”がはかどる Excel 活用術」]



[2015 年 6 月 25 日公開
「超高齢社会:未知の社会への挑戦」]

ー4 カウンセリングプログラム

そもそも仕事とは何か、そして自分にふさわしい仕事とは何なのかを模索している「アソシエイト」層を中心に、「しごと」そのものについて考えるきっかけを提供したいということで「カウンセリングプログラム」を2010年度よりスタートしました。2013年度では約6割を占めたのが「アソシエイト」層でしたが、2014年度には「リーダー」層が約6割と逆転、来談者数も23名から62名と大幅に増加しました。なお2015年度は2016年3月7日現在で来談者数は74名となっています。

カウンセラーは、特定非営利活動法人日本キャリア開発協会(JCDA)と提携し、JCDA キャリア・ディベロップメント・アドバイザーの方に主に担当していただいております。月曜日から金曜日の週5日、16:00/17:00/18:00/19:00の4枠を用意し、Webサイトで予約を受け付けています。初回無料(2回目から有料:4,320円 税込)、カウンセリング時間は1回40分程度です。今年度も引き続き実施します。

ー5 キャリアカフェ

前述のカウンセリングプログラムでご協力いただいているカウンセラーが企画するプログラムです。様々な分野で活躍している方を「キャリアメンター」としてお招きし、自分の「しごと」や「キャリア」について語っていただくプログラムです。司会者と、10人程度の参加者という小規模なスタイルで、率直な質疑と交流を行います。今年度1回開催予定です。



[2015年11月26日開催
第13回キャリアカフェ甲賀 宏さん(そば職人)]

ー6 イノベーションプログラム

文部科学省他各省の人材育成施策を踏まえ、「産学官連携」「大学間連携」といった大学の地域での様々な活動(Good Practice)を紹介するプログラム。KK²として注目する「社会貢献」「観光活性化」等地域再生の課題と「キャリア教育」「就業力支援」といった人材育成を取り上げます。今年度も、伊藤健二主席研究員を中心に年に1回開催予定です。



[2015年12月5日開催 第19回イノベーションプログラム「文科省COC+事業における、大学と企業の具体的な連携 ―事例と課題、地方創生を学生の視点で語る―」]

ー7 コンピテンシー・チェック

社会に貢献している人、社会で活躍する人、優れた仕事をする人が備える「しごと力」の中核となるコンピテンシー「Feel(人間力)、Think(知・考力)、Act(行動力)」について理解し、自分自身の学習課題を知るプログラムです。KK² サイトで公開しており Web 会員登録を行えばどなたでも利用できます。

また学習者を登録し LMS (Learning Management System) で管理、学習履歴を提供するサービスも行っています。昨年度に引き続き、今年度も早稲田大学人間科学部の講座で活用いただく予定です。



〔コンピテンシー・チェック web 画面
感情マネジメント力「年下の上司」〕

(4)文化に親しむ交流事業(KK²文化プログラム)

文化に親しみ、人と人との交流の場を提供する「KK²文化プログラム」は、文化庁「霞が関から文化力プロジェクト」事業として展開しています。



ー1 食と文化講座

食を通じてさまざまな文化に触れ、講師、参加者とともに交流していただくプログラムです。2015年度は、協賛メンバーである株式会社 ANA 総合研究所様が取り組む地域活性化プロジェクトと連携したプログラムを開催し、福島県会津若松市の日本酒、秋田県大館市の郷土料理 きりたんぽ、福井県若狭町の紅映梅と、地域の魅力を紹介しました。今年度も引き続き、女性活躍、地方創生、アクティブシニアといったキーワードで、日本の地域の魅力を食と文化で発信していきます。今年度4回開催予定です。

ー2 霞が関シアター

自主上映会での公開を目指し製作されているドキュメンタリー映画、教育・文化映画に上映の機会を提供、自主上映会や製作団体等との共催プログラムとして開催します。上映後は制作者や有識者を招きトークイベントを行います。今年度1回開催予定です。

ー3 霞が関寄席

仕事に忙しくストレスの多いビジネスパーソンに、伝統芸能に親しむ場、そして笑いでストレス発散、リラックスする場を提供します。今年度3回開催予定です。

・開催予定:05/25(水)、9/3(土)、12/7(土)

ー4 「KK²文化プログラム」出演アーティスト公募事業(KK² エントリープログラム)

様々な分野で技術や芸を磨き、その発表、公演の場を求めているアーティストを公募し、場所を

提供する「KK² エントリープログラム」を 2014 年度よりスタートしました。今年度すでに 3 組のアーティストより応募がありましたので新規募集は終了しています。今年度 3 回開催予定です。

ー5 音楽・文化活動への支援

2008 年より株式会社ミュージカル様と共催してきました「霞が関ミュージックサロン」は、株式会社ミュージカル様が主催するプログラムへと変更します。それにあたって KK² は会場提供のご協力をさせていただきます。今年度 2 回開催予定。

ー6 「霞が関音楽祭」への協力

文化庁が中心となり、KK²、霞が関コモンゲート、霞が関ビル等が主催するプログラム。文化庁主催の「霞が関から文化力プロジェクト」の一環で、霞が関のにぎわい創出、また音楽に気軽にふれたいと機会を提供として 2014 年度よりスタートしました。参加費は無料で回を重ねるごとに周知が進み、定着しています。KK²として今年度 1 回協力開催予定。

ー7 江戸 TOKYO 散歩～広重「名所江戸百景」と東京の今～

KK² 開設記念に制作したオリジナル作品「江戸 TOKYO 散歩」は、歌川広重の最高傑作といわれる「名所江戸百景」から春夏秋冬の 12 景をモチーフに紹介、江戸と現在の東京の街なみ、人々の営みを映像に収めています。多言語（英語/韓国語/繁体字/簡体字）でも提供しており、YouTube より配信しています。制作後 8 年経過しているため一部映像の差替えを今年度行う予定です。

(5) 官民連携支援事業

ー1 霞が関オープンランチミーティング

2011 年 1 月よりスタートした中央省庁の若手官僚、NPO リーダー、企業の CSR 関係者等による「霞が関オープンランチミーティング」（月 1 回開催）は、3.11 をきっかけに、被災地の復興を支援する官民のインフォーマルな情報交換の場となり、各メンバーの立場でできることを持ち寄り復興から地方創生に向けた連携協働を進めています。KK² は会場提供の協力を行っており、今年度も月 1 回開催予定です。

ー2 霞が関ばたけ

農林水産省の若手職員が中心となり、日本の農林水産業の未来について、農林水産業従事者、企業、NPO、大学等垣根を越えて連携し、それぞれの立場での課題共有を行い議論を深める早朝ミーティングの場です。2012 年より KK² は会場提供の協力を行っています。また主催者には、第 18 回イノベーション・プログラム「地域名産品の開発・発信における産学連携ー地域創生に向けた、農水省の政策と大学の役割ー」（2014 年 12 月 11 日開催）において 6 次産業化をテーマにした講師紹介等 KK² 事業へのご協力もいただいております。今年度も月 2 回開催予定です。

(6)運用業務関連

自主企画プログラムの受付業務の効率化、参加者の利便性を高めるために、今年度 Web でのクレジット決済のシステム導入を予定しています。引き続き持続可能な事業とするための改革を続けてまいります。

(7)その他

ー1 運用業務関連

自主企画プログラムの受付業務の効率化、参加者の利便性を高めるために、今年度 Web でのクレジット決済のシステム導入を予定しています。引き続き持続可能な事業とするための改革を続けてまいります。

ー2 メールマガジン「メッセージ from KK²」

毎週金曜日に無料 Web 会員向けにメールマガジン「メッセージ from KK²」を発行し、KK² のプログラム紹介やお知らせを発信しています。巻頭言「メッセージ from KK²」は、KK² 開催プログラムと連動した「人と人との絆と地域再生」や「キャリア」「学び」をテーマにし、週替わりで 5 名が担当しています。[執筆者:久保田了司(KK² 代表)/伊藤健二(KK² 産学官連携主席研究員)/伊庭野基明(グローバルキャリアカウンセラー)/華井弘子(「エクスパート倶楽部」ゼネラルマネージャー)/丸山修(KK² 事務局)]

KK² Web のアクセス解析より、各プログラムへのアクセスはメールマガジン、とくに「メッセージ from KK²」との連動性が高いことが示されていますので、さらに効果的に活用してまいります。

・年間発行予定数:約 50 回。

Ⅲ コンサルティング事業

現在、全国の自治体向けに設計コンサルをする地方拠点として、札幌事務所(札幌)、山梨事務所(笛吹)、広島事務所(広島)、四国事務所(高松)、九州事務所(福岡)を設けており、また宮城県仙台市、長野県松本市には常駐員をおいております。

各事務所の所長は、地元出身者を配置することで、地域の理解とその環境に応じた最適な地元密着型のコンサルスタイルには、ご評価を頂いているところです。

今まで AVCC で培った、自治体情報化、防災分野、セキュリティ分野等のコンサル業務に加え、被災地域の新たなまちづくり及び交流拠点等の構築支援、地域の特産品販路開拓支援、観光振興支援などの地域創生にも貢献できるコンサルを目指し、活動してまいります。

(1) ネットワーク設計コンサルティング業務

AVCC では、海底から宇宙まで、さまざまな回線のネットワーク構築にあたり、専門的な知識や経験を有した技術者が設計・監理さらに運用についてまでコンサルティング致します。

ー1 海底ケーブル設計コンサルティング業務

本土においては、ほぼ全域に FTTH 化が進み、超高速ブロードバンド環境が整備されましたが、島しょ部においては、整備が遅れています。その実現には、島しょ部への海底光ファイバーケーブルの敷設が必要で、AVCC では今年度も、調査・設計・監理の各フェーズにおいて、コンサルティングを行って参ります。

ー2 防災情報ネットワーク設計コンサルティング業務

昭和 34 年 9 月に発生した伊勢湾台風は、死者・行方不明者が 5,098 人にのぼる甚大な被害をもたらしました。強風による断線でラジオ(当時は有線)や電話が不通となった地域では、避難勧告等が伝わらず、被害が拡大しました。この経験から、国では災害対策基本法を制定し、ケーブル断線による住民への情報の途絶を回避するため、無線による防災行政無線システムの整備促進が図られました。

その防災行政無線の全国の整備率は、平成 27 年現在、全国で 91.7%となりました。昨今では、無線のデジタル化が促進され、防災行政無線もデジタル化率が 48.9%まで進みましたが、まだ約半数はアナログのままです。さらに、IT 環境も変化し、災害情報を受信できるメディアも、パソコン・携帯電話・スマートフォン・CATV・コミュニティ FM ラジオ・V-LOW ラジオ・ポケベル波ラジオ・デジタルサイネージ・Lアラートなど多岐にわたり、その運用の試行錯誤も問題となっております。AVCC では、防災分野での ICT 活用に、いままで培ったノウハウを最大限に提供して参ります。

ー3 高速伝送路設備設計コンサルティング業務

平成 11 年度頃より、地域間の情報格差(デジタルディバイド)を是正し、地域住民の生活の向上

及び地域経済の活性化を図ることを目的に、イントラネット基盤整備などが、国の補助金を活用して、全国の自治体で実施されました。その設備も老朽化が進み、更新検討を行う中、情報通信技術が飛躍的に進展した上、通信サービスの低廉化や住民ニーズの変化など、導入当時とは環境が大きく変化し、さらに今後 10 年先を見極めた、最適な計画が必要になってきております。

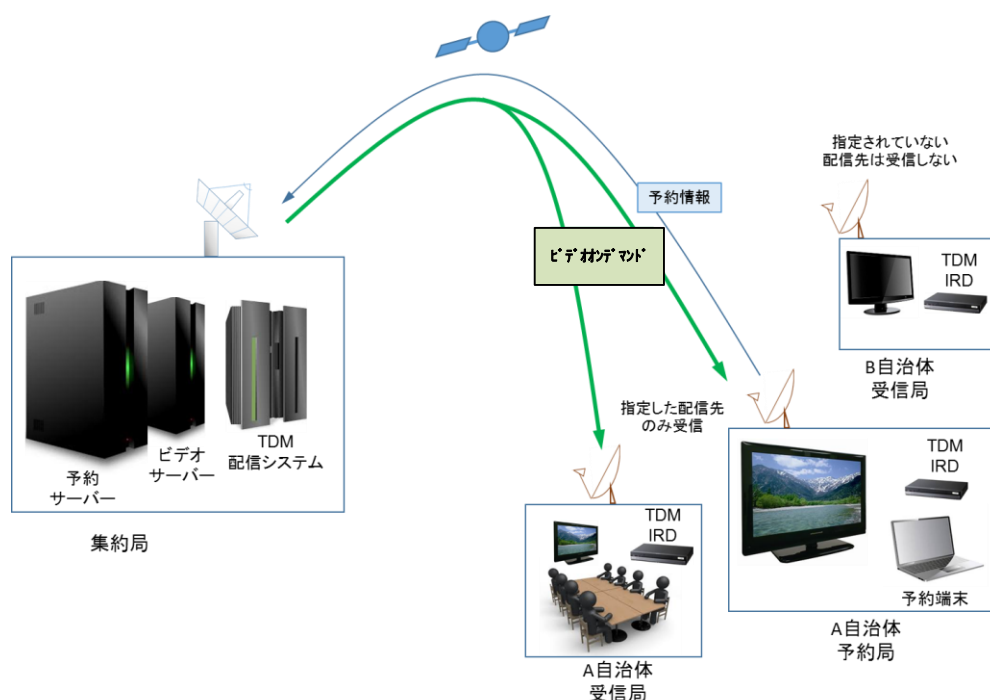
AVCC では、イントラネットや CATV などの更新計画、ネットワーク設計及びさまざまなシステムとシームレスに連携させ、利便性向上を図るコンサルティングなどを行って参ります。

ー4 衛星通信設備コンサルティング業務

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災では、地震・津波・火災などの影響により、通信インフラにも甚大な被害をもたらしました。固定通信網においては、NTT 東日本・KDDI・softbank の 3 社で約 190 万回線が被災し、さらに最大 90%の通信規制も実施されたことから輻輳も発生し、しばらくの間、繋がりにくい状況が続きました。携帯電話及び PHS 基地局についても、docomo・KDDI・softbank・e-mobile・willcom の 5 社で最大約 29,000 局が停波し、さらに音声回線の最大 95%で発信規制がなされ、その影響は首都圏のユーザーにまで及びました。

この経験から、災害時の地上系回線システムの脆弱性が浮き彫りなり、衛星回線が見直されるようになりました。しかし、衛星の回線利用料や設備費用が高価であり、導入の難しさも指摘されています。

AVCC では、衛星回線の伝送効率を高め、さらに設備費用の低廉化も図り、災害時に多くのユーザーが有効活用できるためのコンサルティングを行って参ります。



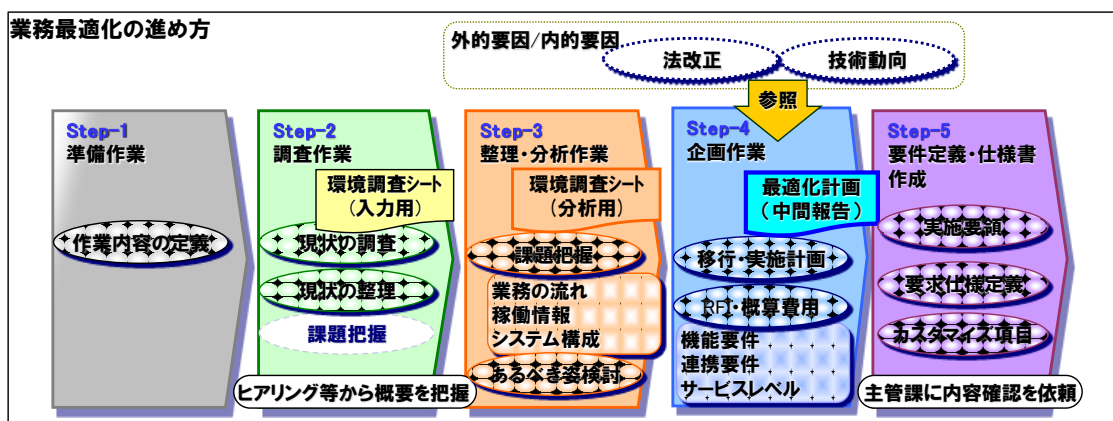
(2) システム設計コンサルティング業務

平成 26 年 6 月閣議決定した「世界最先端 IT 国家創造宣言」では、利便性の高い電子行政サービスの提供、国・地方を通じた行政情報システムの改革、政府における IT ガバナンスの強化などが重点項目として盛り込まれています。その中では、マイナンバー制度の利活用の推進、IT 運用コストの大幅な削減、統合化・クラウド化の加速などが具体的な対策として明記されました。

AVCC では、情報システムの品質向上をめざしながら、コスト削減を図るための業務・システムの最適化、さらにはシステム調達の適正化に至るまでの支援を中心に、次のコンサルティング行なってまいります。

ー1 基幹システム最適化支援業務

基幹システム更新にあたり、現状分析、RFI(Request For Information)、導入費用・運用費用等のコスト削減等の検討結果を踏まえ、当該自治体に最適な業務・システムを提案し、その調達仕様書及び附帯資料作成支援を行います。さらには、平成 28 年 1 月から運用が開始されたマイナンバー制度の導入に伴う行政機関のシステム改修に関する支援等にも取り組んでまいります。



ー2 電子自治体構築支援業務

電子自治体の推進に伴い、税の電子収納をはじめとするインターネット系の住民サービスシステムの構築やそのバックボーンとしての自治体クラウド導入について、関係経費の削減や事務負担の軽減、さらには住民の利便性向上を目的とし、最適なシステム及びネットワークの構築を支援します。

ー3 地域活性化支援業務

ICT を活用した新たな街の活性化を目的として、ICT を活用した新たな街づくりの在り方、その実現に向けた推進方策やシステム構築方策についてコンサルティングを行います。

ー4 教育・文化施設等における情報システム構築支援業務

公民館、公共図書館、生涯学習センター、教育センター、学校ならびに企業内教育施設等での情報システム・教育システム導入計画、リニューアル計画等に関連した基本計画、設計、運用計画、維持管理計画の策定業務を行ないます。

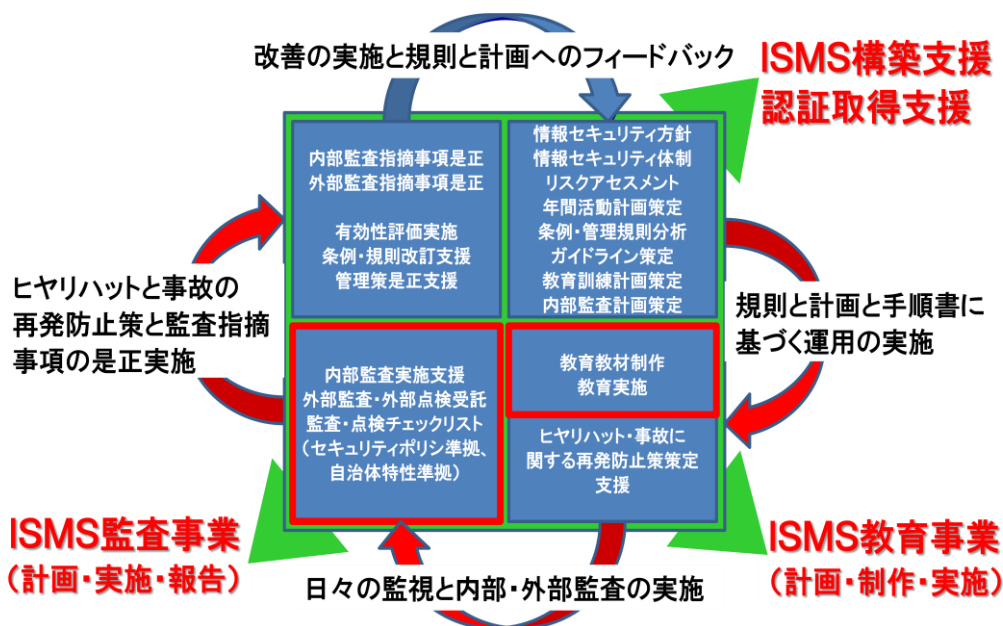
(3) 情報セキュリティコンサルティング業務

情報処理推進機構 (IPA) が発表している組織における、「情報セキュリティ 10 大脅威 2016」では、標的型攻撃による情報流出、ウェブサービスからの個人情報の窃取、サービス妨害攻撃によるサービス停止、ウェブサイトの改ざん等、情報技術上の脅威の他、内部不正による情報漏えい、過失による情報漏えいといった人的・組織的脅威が上位にあげられています。

また、2016年1月以降、既にメールの誤送信、個人情報入り携帯端末・USBメモリ紛失、HDD盗難、移送中のトラックからの落下飛散による回収不能、個人情報の自転車かごからの窃盗、車上荒らしによる窃盗、誤掲載・誤配布・誤廃棄、元従業員による顧客情報の不正持出し、SNS への不正投稿等、外部犯行及び内部不正等、人的な故意過失による情報漏えいが繰り返し発生しています。

人的要因に基づく情報セキュリティの脅威は、教育・訓練、監視・監査等組織的安全管理措置によって一定の未然防止を講じることが可能であり、物理的・技術的安全管理措置を含めて情報セキュリティ方針、規則、体制、年間活動計画、教育・訓練、運用、監査、是正といった情報セキュリティを組織的・継続的に管理運用する仕掛けと仕組みづくりが官民間問わず喫急の課題となっています。

そこで AVCC では、多様な分野に渡って全国の数多くの行政機関からの委託事業を通じて、行政の業務特性に応じた、ISMS 構築及び ISO27001 認証支援事業、情報セキュリティ外部監査事業、情報セキュリティ教育事業を展開しています。



ー1 ISMS 構築及び ISO27001 認証取得支援業務

行政機関の共通的特性、個別特性を踏まえた情報セキュリティに関する既存の条例、管理規則、通達の分析に基づく情報セキュリティポリシーの再策定、ガイドライン、マニュアルの作成、教育教材の制作、教育の実施、簡易点検・監査の実施、監査結果報告、是正提言等一連のマネジメントシステムの構築及び運用の支援、JIS Q 27001:²⁰¹⁴(ISO/IEC 27001:²⁰¹³)、JIS Q 15001 の適合性認証支援を受託致します。

(4)情報セキュリティ外部監査業務

情報セキュリティを維持・管理する仕組みが組織において、適切に整備・運用されているか否かを第三者の立場から点検・評価します。また、情報セキュリティに関する管理及び対策が適切であるか否かを示すとともに、情報セキュリティ上の問題点の指摘と改善の方向性を提言します。

地方公共団体での情報セキュリティ外部監査は、情報セキュリティポリシーの実施状況を点検・評価するものであり、監査項目の設定においては、当該団体の監査テーマに応じた監査項目を情報セキュリティ監査項目から抽出する助言型監査を致します。

(5)プライバシーマーク認定審査支援業務

プライバシーマークは、個人情報保護する企業を示す信頼のマークです。

「プライバシーマーク」のロゴの使用を認められた企業は、プライバシーマークの認定制度により、個人情報の取扱に関して適切に保護措置を講じていることを認められた企業です。そのため、このマークを使用している企業は、個人情報の取扱いが適切であるということが容易に判断できます。安心して個人情報を提供するためにもプライバシーマークの確認をしましょう。

企業はあなたの個人情報を様々な形で利用しています。あなたの個人情報は大丈夫ですか？

プライバシーマークの認定を受けている事業者は、下の質問に明確に回答できる企業です。

ご自分の個人情報を企業に教えるときは、プライバシーマークがあることを確認しましょう。

アンケートに答えたり、インターネットで買物をするときには、次のことを確認し、納得した上で自分の情報(個人情報)を提供することが、自分のプライバシーを守る上で大切になります。

CHECK 1 私の個人情報は、どのような目的で使われるのか？

CHECK 2 私の個人情報は、その企業だけが使うのか？

CHECK 3 私の個人情報は、知照の目的のために他社に委託・提供する場合があるのか？

CHECK 4 私の個人情報に対して提供の後に開示・訂正・削除を要求することができるのか？

CHECK 5 個人情報の管理者を任命しているのか？

CHECK 6 漏洩や不正アクセス等から個人情報を守るための安全管理の体制が整っているのか？

あなたが企業に個人情報を提供する場合は、上記のことに注意し、次の事項を確認して納得した上で、個人情報を提供しましょう。

インターネット・ショッピングの場合は、サイト上の個人情報保護方針やプライバシーポリシーで、上記の事項が明確に謳われているか確認することが大切です。

JIPDEC
Japan Information Processing Development Corporation

プライバシーマークの概要(出典: JIPDEC)

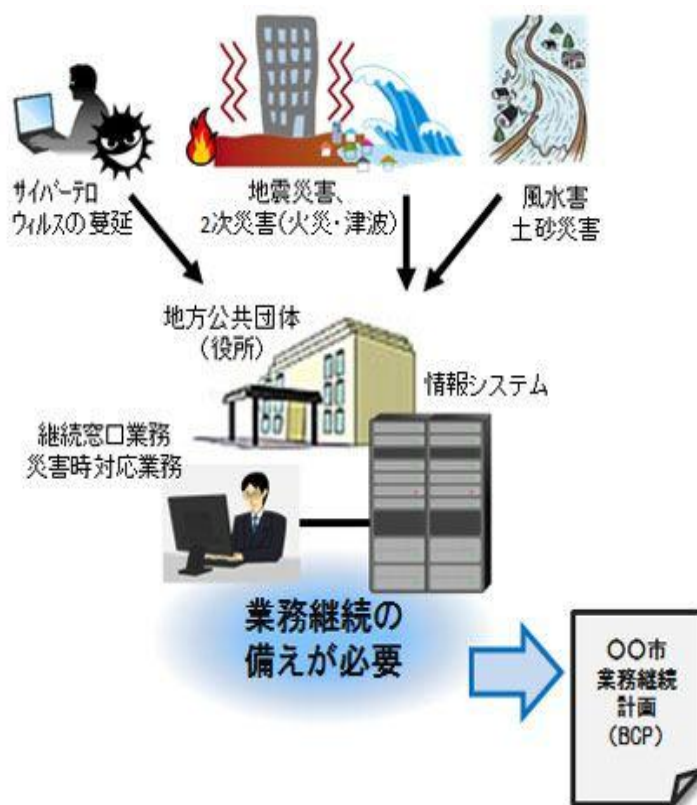
一般財団法人日本情報経済社会推進協会(JIPDEC)及び一般財団法人放送セキュリティセンターが行なっている、個人情報を適切に取り扱っている組織を一定の基準で認定し、プライバシーマークの使用を許諾する制度に係る審査業務を支援します。

(6) 情報セキュリティ/個人情報保護等研修支援業務

行政機関や民間企業の情報セキュリティ/個人情報保護に関する研修を行ないます。意識づけ研修から顧客の環境に合わせたケーススタディ演習まで、さまざまな状況に応じた研修を実施します。

(7) ICT 部門における業務継続計画(BCP)作成業務

大規模な災害、事故が発生した場合、組織及び周辺地域の被害により人、物、情報、資金、公共インフラ等が利用できる資源に制約がある状況に陥ることが予想される。ICT 部門における BCP 作成は、いかなる緊急時の状況においても、中断させることができない、あるいは復旧を優先すべき重要業務を事前に特定することが肝要です。事前のバックアップ準備やリスク軽減、事後の災害時応急対応、復旧手順の明確化、指揮命令系統の確保等の計画等を定め、被災の影響を最小限にとどめることを助言しながら、BCP の作成を支援いたします。



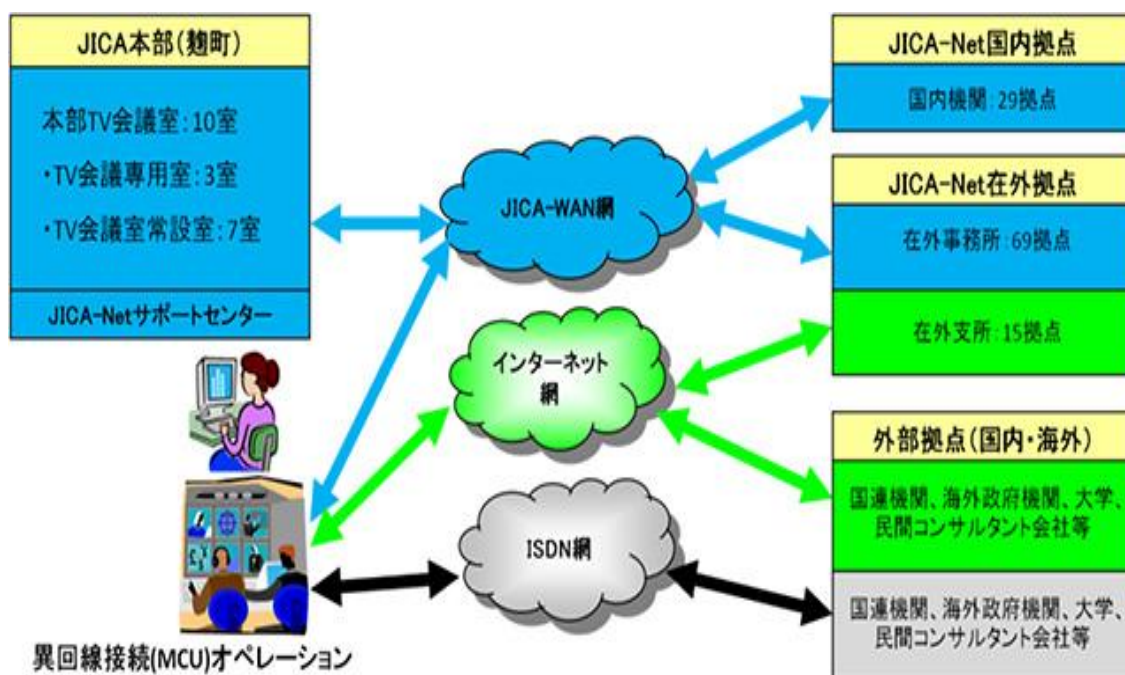
IV ICT 利活用を支えるシステム運用保守事業

組織・地域におけるICTを活かした情報共有を支援します。専門的な技術と経験を有したスタッフが、日々のオペレーションのみならず、定期保守などのメンテナンスから次期システムの導入までトータルなサービスを提供してまいります。

(1)TV 会議システム運用業務

独立行政法人国際協力機構(JICA)の委託を受けて、JICAが運用するTV会議システムの機能を最大限に活用し、より効果的かつ効率的な技術協力、有償資金協力、無償資金協力等JICA事業を実現すること、及び事業の機会拡大に資することを目的として、JICA内に業務従事者を配置し、具体的に以下のTV会議システム運用支援業務や付随する業務を行います。

- ・TV 会議接続オペレータ業務、施設管理業務
- ・TV 会議システムヘルプデスク業務
- ・TV 会議室、TV 会議機器更新に伴うコンサルティング業務



(2)ICT を活用した地域コミュニティの運用支援業務

組織・地域におけるICTの導入支援、運用支援、保守サービスまでトータルに支援します。

V 人材育成プログラム・Web プラットフォーム企画開発事業

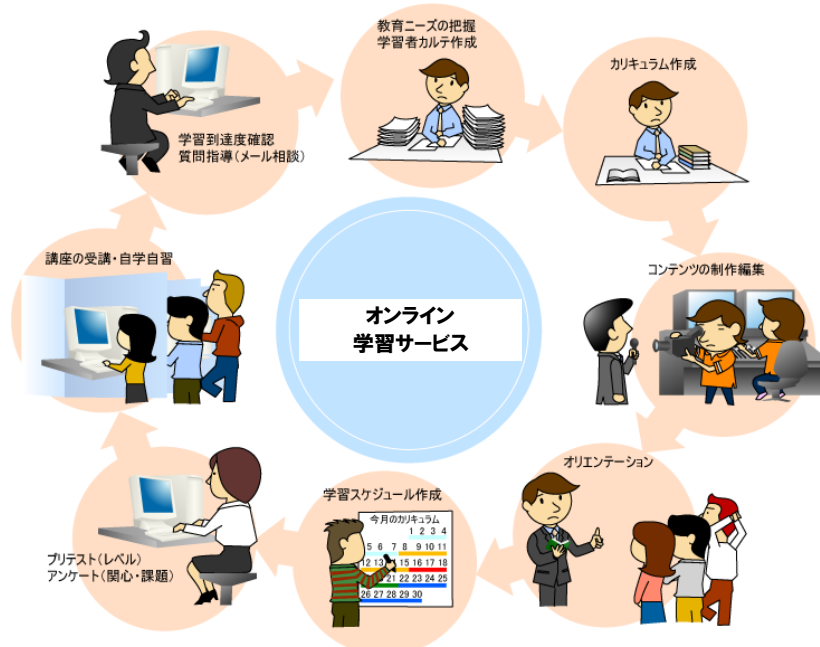
企業・団体の構成メンバーの自律した学習・的確な情報共有を支援するための効果的なプログラム開発と学習環境システムを総合的に提供します。

(1) 学習プログラム企画開発事業(動画コンテンツ/ Web コンテンツ制作)

人材育成、採用に効果的な映像プログラムの企画開発を行います。

(2) オンライン学習サービスの提供

いつでもどこでも学べる、ポートフォリオ(学習履歴)の管理が行えるオンライン学習サービスを提供します。遠隔地で多忙な業務に追われ、研修時間が取れない職員の研修などに活用いただけます。KK²の既存プログラムと独自に開発したプログラムを組み合わせ、短期間に低コストでオリジナルオンライン学習サービスを提供してまいります。



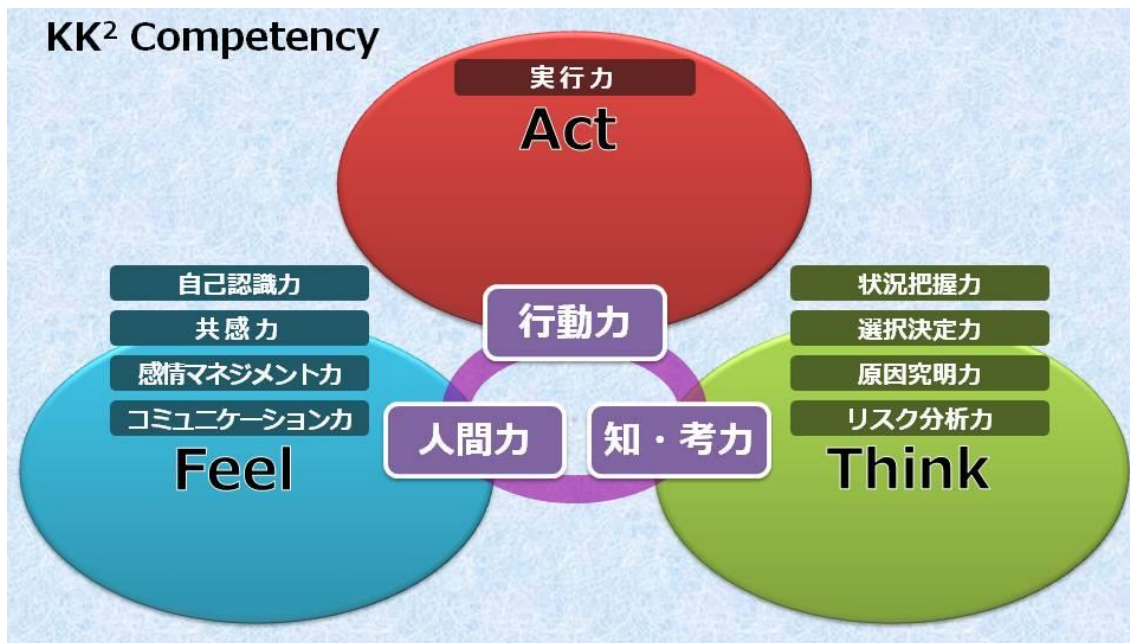
(3) 統合 Web インフラ構築支援

KK²の Web サイトで活用しているコンテンツ管理システム(CMS)は、多機能の統合 Web インフラです。企業や官公庁の情報サイトのみならず、ポータルサイトや EC サイトといった幅広い分野での適用が可能で、コンテンツ管理機能、パーソナライズ機能、コミュニティ機能との連携により、一段と多様化することが可能です。KK² Web の構築経験を活かし、統合 Web インフラ構築を支援します。

以上

添付資料1:KK² Competency の解説

Competency(成果をあげる人の行動特性)「Feel(人間力)、Think(知・考力)、Act(行動力)」の概念図とその解説は以下の通りです。



I -1 Feel: 人間力

「人間力」とは、人とよりよい信頼関係を結ぶことができる力です。信頼関係を結ぶためには、人間の根本のレベル、感情面のやりとりから捉える必要があります。

人間力は「自己認識力」「感情マネジメント力」「共感力」「コミュニケーション力」の4つのカテゴリに細分化しました。

I -1-(1) 自己認識力

- ①自分におきている複数の感情を認識することができる。
- ②自分におきている感情をもたらしている原因を認識することができる。

自分の感情、気持ちを理解することにより、マイナスな感情を方向転換(マネジメント)することができます。また、それをきっかけに相手の気持ちを想像することができるため、相手を思いやることができるようになります。

I -1-(2) 感情マネジメント力

- ③自分におきている感情を理解した上で、建設的で冷静な判断・選択をすることができる。
- ④くじけそうなときに自分を奮い立たせることができる考え方(楽観主義)ができる。

感情を相手にぶつけて怒ったり、逆に自分の中に抑制させ落ち込んだりするのではなく、自分の感情を理解することにより、冷静で適切な対応をとることができます。怒りなど不快な感情は、何か

問題があるからです。感情のマネジメントによって冷静になり、本質的な問題の解決に進むことが大切です。

I-1-(3) 共感力

- ⑤自分の視点ではなく、相手の視点に立って、相手の考えや感情を理解することができる。
- ⑥相手の感情を理解するために、非言語的理解ができる。

相手を大切にするという気持ちが根底にあると、信頼が得られやすく、オープンに理解し合うことが容易になります。人に自分を理解してもらい、思いやりのある態度を示してもらったうれしさは誰もが経験しています。共感力は人間関係の鍵ともいえます。

I-1-(4) コミュニケーション力

- ⑦人の多様な意見、価値観を認めることができる。
- ⑧はっきりと自己表明をすることができ、誤解の少ない人間関係をつくることができる。
- ⑨相手の感情を把握して、伝えたいことが間違えなく伝わるための話の構成を組み立てることができる。

コミュニケーションは、相手の話を聞く部分と、自分の話をしっかりと表明する部分から成り立ちます。よりよいコミュニケーションのために、相手に共感することがひとつの重要な道具とすると、率直に自分の考えと気持ちを相手に伝えることができることは、もうひとつの重要な道具ともいえます。

I-2 Think:知・考力

仕事はもちろん、日常生活でも日々私たちは大小さまざまな問題に直面します。この次から次へとおこる問題を対処していく知・考力はとても重要になります。

知・考力は「状況把握力」「原因究明力」「選択決定力」「リスク分析力」の4つの項目に細分化しています。

I-2-(5) 状況把握力

- ①先入観や不確かな情報にとらわれず、状況を正しく認識できる。
- ②事実を得るために、できるだけ正確な情報を入手することができる。
- ③収集した情報をもとに課題を整理し、想定できる対策を明確にすることができる。

問題解決の第一歩は、何が問題で、何が課題なのかを明確に確認すること、つまり「問題に関する状況把握」が重要です。できるだけ正確な情報を収集できる方法を検討し、問題を構成する要素を明確にすることが大切です。

I-2-(6) 原因究明力

- ④問題の内容を整理、分析し、キーとなる原因の絞り込みができる。
- ⑤問題の原因と想定されるものの裏付けをとることができる。

問題が発生した時、なぜその問題が起きたのかという原因を突き止めなければ、解決の糸口は見つかりません。専門的な知識だけではなく、どこに問題の原因があるのかを突き止める思考の手順を理解し、次のステップである再発防止の仕組みづくりも必要です。

I-2-(7) 選択決定力

⑥選択決定にあたって足りない情報がないかどうかを確認する。またメリット、デメリットを整理することができる。

⑦選択決定をすることで、望ましい目的・状態を明確にすることができる。

選択決定とは、自分にとって望ましい目的・状態を思い描いて、そこに到達する手段の中で最も効果的で、犠牲が少ないものは何かを考えることです。それぞれの選択決定を正しく行うことができるかどうかは、あなたの生活や仕事の成果などに大きく影響します。

I-2-(8) リスク分析力

⑧想定される具体的リスクを整理することができる。

⑨リスクが発生しないための対策を検討し実施することができる。また、リスクが発生すると想定される原因についての対策も行うことができる。

⑩リスクが発生した場合の対策を明確にすることができる。

計画を立てたがうまくいかなかったということは誰にでもあります。理由としてリスクについて検討していなかったということがあげられます。リスクとは、計画の実現が不可能になったり、計画を大きく変更せざるを得なくなるような障害のことをいいます。

I-3 Act: 行動力

人は、行動・実行することによって、はじめて環境を変えることができますが、そうたやすいものではありません。目標を明確に認識し、それに向かって具体的な方策を検討することによって行動・実行力を高めることは可能です。

I-3-(9) 実行力

①最終到達目標を明確化し、自覚することができる。

②目標達成に必要な要素(必要条件)を明確にし、その要素をクリアするための具体的な行動計画(スケジュール、予算を含む)を立てることができる。

③実行過程において想定外のリスクへの備えも準備することができる。

行動・実行は、感情ややる気といった内側からの情熱ももちろん重要ですが、実現するためのステップをしっかりと踏まなければ、その可能性は低くなってしまいます。実行することは、最終のアウトプットでもあり人間の活動には大変重要なものです。

添付資料2:『みんなの笑顔が宝物』

高台移転と共に姿を消した岩手県の仮設住宅「長洞元気村」リーダー、村上誠二さんのメッセージ「みんなの笑顔が宝物」をご紹介します。

『みんなの笑顔が宝物』

若者が残らないのは何故
雇用の場がないから
安定した収入が得られないから
不便だから
他に若い人がいないから

そうだろうか

私たちは、若者にここで生きることが楽しくて魅力的だと伝えてきたろうか
苦しくてもここで一緒に頑張ってみよう伝えてきたろうか
仕事を創ってみよう伝えただろうか
誇らしい姿を見せてきただろうか

いやそうではなかった

少しでも多くお金稼ぐことが幸せに近づく道と伝えてきた
幸せな生活は都会にあることを知らず知らずの中で伝えていた
経済最優先・働いて働いてマイホームの夢や豊かな老後生活を追う
それが一人前の人間だと教えた
家もほしいお金もほしい子や孫に不自由な思いはさせたくない
自分と同じ苦勞をさせたくない
そう思って生きてきた
そう伝えてきた
若者はその教えを守って生きている

東日本大震災は働いて働いて得た家も家財も漁船も漁具も奪っていった
幸せな老後も奪われ全てが終わったように思えた
そこを生き抜く力になったのは「いのち優先」の人とひととのつながりだった
長洞地区の人々は被災者のために食料を提供し家々を開放して受け入れ
未曾有の災害に立ち向かった



「長洞元気村」リーダー 村上誠二さん

生き抜いたたかいが始まったその時、
経済優先の生き方は捨てられた
あるものを持ち寄り手を差し伸べ支え合う
地域コミュニティの力が湧きあがった
生きる価値観が大きく変わっていった

仮設住宅団地を長洞元気村と呼んだ
絶望的な状況の中で支え合い
励まし合う取り組みが続けられた
昔あった当たり前の生活が
少しずつ甦ってきた



「長洞元気村会議」新しい長洞づくりに向けて

仮設暮らしの中で、長洞の未来を語り
みんなの居場所と出番を探した
そんな小さな取り組みが年ごとの進化を遂げた
笑顔と笑い声が絶えない長洞元気村である

長洞で生きる地域の誇りを取り戻したい
海があり山があり
何百年前に先祖が耕した田畑がある
支え合うコミュニティがあり絆(きずな)がある
そしてなにより1000年に一度の大災害を乗り越えた知恵と経験がある
生き抜いた誇りがある
避難生活の中で鍛えられた強い思いがある
前に進もうとする思いがある
子や孫の命を守るために伝えたいことがある
人々を温かく迎えるおもてなしの心がある
身の丈に合った好齢ビジネス事業が生まれ
進化する長洞集落がある

今伝えたい
魅力的で楽しさが詰まっている長洞を
それを支えてくれる地域コミュニティを
そして 一緒に長洞の未来を創りたいと考え動き始めていることを
長洞のみんなの笑顔が宝物であることを

[illegible]